

## 第4回 泉佐野丘陵緑地 運営会議

日時：平成23年12月7日(木)13:30～16:00

場所：泉佐野丘陵緑地工区事務所会議室及び（仮称）泉佐野丘陵緑地「郷の館」

### ◆出席委員（敬称略）

大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 教授 増田昇（委員長）

大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 准教授 下村泰彦

大阪市立大学大学院 工学研究科 准教授 嘉名光市

大阪ガス株式会社 エネルギー・文化研究所（CEL）特任研究員 弘本由香里

うみべの森を育てる会 代表 西台幸子

泉佐野丘陵緑地パーククラブ 会長 殿元日出夫

泉佐野丘陵緑地パーククラブ 副会長 杉本和彦

### ◆欠席委員

元大阪府立大学大学院 教授 前中久行

大輪会 末澤事務局長（オブザーバー）

泉佐野市都市整備部 部長 松下義彦

傍聴人

6名

### ◆議事

#### ○報告案件

- ①平成23年度 運営会議開催計画の実績について
- ②第3期パークレンジャー養成講座7回～11回と修了式の報告
- ③泉佐野丘陵緑地フォーラムの開催について
- ④パーククラブの活動報告（10月～11月）
- ⑤パーククラブのワークショップの現状について

## **報告 1 : 平成 23 年度の運営会議開催計画の実績について**

## **報告 2 : 第 3 期パークレンジャー養成講座 7 回～11 回と修了式の報告**

### **増田委員長**

・パークセンターの実施設計の検討は本日の協議事項にはあるが、今後の予定の中で協議事項にあがっていない。今日の議論で終わりか。

### **事務局**

・資料への記載漏れです。第 5 回以降も協議内容として検討していただく予定です。

### **増田委員長**

・パークセンターの実施設計の検討は今年度で終わりか。

### **事務局**

・今年度で終了する予定です。

### **増田委員長**

・下村先生は、パークレンジャー養成講座で 2 回の講座を持たれていたが、感想があればいただきたい。

### **下村委員**

・第 3 期の講座受講生は修了式を終え、皆さん、とても喜んでいて。また、とても活発にワークショップで話し合いをしていただいた。公園に興味を持っていただいた方が多かったと感じている。

### **増田委員長**

・最終的には何名が卒業したのか。

### **事務局**

・講座の募集枠は 40 名であった。講座終了時は補欠を含めて 38 名が修了された。第 3 回養成講座までで、欠員が 9 名いた。従って補欠枠から補充して最終 38 名、約 9 割の方が修了されたことになります。

### **増田委員長**

・この人数は過去最大か。

#### 事務局

- ・最大です。今までであれば、約7割の方が修了されていた。

#### 増田委員長

- ・講座修了後のパーククラブへの定着は何人くらいか。また、総数は何人になったのか。

#### 事務局

- ・3期生は38名中36名がパーククラブに入会された。その結果、パーククラブは総勢80名になった。

#### 増田委員長

- ・今まで44名であったパーククラブに36名入るとなると、会の人数がほぼ倍になったということなので、会自体の運営も工夫する必要があるだろう。
- ・3期生との活動予定はどうなっているのか。

#### 殿元委員

- ・12月10日(土)に歓迎会を開催し、飯盒炊飯をして同じ釜の飯を食べて、交流を持つ予定である。

#### 増田委員長

- ・3期生は全員が参加か。

#### 殿元委員

- ・3期生より21名が参加され、1期・2期生からは24名が出席する予定である。

#### 増田委員長

- ・急速にメンバーが増えるのはとてもうれしい。しかし、マネジメントに気をつけないといけない。

### **報告3：泉佐野丘陵緑地フォーラムの開催について**

#### 増田委員長

- ・フォーラムは急に持ち上がった話である。昨年まで運営会議の委員であった清野さんと澤木先生は今年からアドバイザーとなり、今回はアドバイザーとして是非フォーラムに参加していただきたいと考えている。
- ・フォーラムの参加に対し、お二人からはご快諾いただいているようである。後援名義に

造園学会関西支部の名前があがっているが、まだ予定だと思う。

- ・整備状況の報告は工区長が良いのか少し検討したほうがよい。
- ・まず、私が30分のプレゼン資料を作成して、殿元委員と工区長にお配りする。内容が重ならないように、役割分担をして報告したい。
- ・今回の会場は、大輪会さんからりそな銀行大阪本社ビルを是非利用してほしいとご提案いただき、決定した。建物の半地下～地下1階にある、とても設備の整った素晴らしいホールである。
- ・会場が大阪市内ということで皆さんには足を運んで頂かないといけないので、うまく広報ができればいいなと思う。
- ・とくに府民協働だけでなく、大輪会という府内企業との協働を踏まえた公園づくり、そして嘉名先生や下村先生にもお世話いただきながら、ずっとつくり続けるというシナリオ型の公園づくりということで「いかに人が関われる仕組みをつくっているか」といった点をアピールできたらと思っている。
- ・ポスターセッションは西台委員へ依頼しているのか。2月4日は年明けてすぐのこと。他の府営公園のボランティアさんにも早めにパネルの製作のお願いしたほうがよい。
- ・ポスターの展示枚数や作成費用、運搬方法なども早急に詰める必要がある。

#### **事務局**

- ・パネル搬入は各土木事務所がサポートするなど、ボランティアに手間を取らせないように実施したい。

#### **増田委員長**

- ・パネル展示する際の道具も準備したほうがよい。

#### **事務局**

- ・必要となる資材調達については、大輪会にお願いする予定です。

#### **弘本委員**

- ・注目してもらえるようにマスコミに報道資料提供をしてもらいたい。

#### **事務局**

- ・報道資料提供していきます。

### **報告4：パーククラブ活動**

#### **増田委員長**

- ・芋煮会は観光ボランティア協会と連携してイベントを行った。どんなやり取りをして連

携を取ったのかを整理しておく、今後他団体とどのように繋がったらいいのかという参考になる。

- ・コナラのどんぐりの出来具合はどうだったか？

#### **殿元委員**

- ・今年、コナラのどんぐりのできは全国的少ないといわれている。泉佐野丘陵緑地も同じように少なかった。

#### **増田委員長**

- ・河辺いきものの森の視察はどうだったか。

#### **殿元委員**

- ・お昼を作っていただき、交流を図った。

#### **増田委員長**

- ・コーディネーターをされている丸橋さんは、コンサルタントに所属していた経歴を持つ優秀な人材である。今後、パークマネジメントを考えていくうえで、このようなパークマネージャーとなる人材をどのように育てていくか、大阪府としても考えないといけない。

### **報告5：パーククラブのワークショップの現状について**

#### **増田委員長**

- ・今後どうするかを共有するためにも運営会議でゾーニングだけの会議をしないといけない。どんな目標植生にするのか、どのように手をいれていくかなどを運営会議でも検討するべき。

#### **杉本委員**

- ・今回はとりあえずのゾーニングである。今後具体的にどのような活動をしていくかを踏まえてゾーニングを検討していかないといけないと考えている。

#### **嘉名委員**

- ・もっとゾーンの特性、特徴を記述していく必要がある。今は「活用」「保全」「保存」「検討中」の4種に分けているが、保存と保全はどのような違いがあるのか、など意味も含めて明らかにする必要がある。
- ・これからの作業だと思うが、公園の全体像についてもどのような場にしていきたいのかを書きこむとよい。全体像を見たときのバランス、整合性を見る際にも役に立つと思う。

色んな意見があるのなら併記しても構わない。

#### 殿元委員

- ・ゾーニングを検討する際の参考になるような図書はあるのか。

#### 増田委員長

- ・泉佐野丘陵緑地のように植生管理を伴いながら、どんな将来像を描くのかというようなノウハウ本はない。

#### 嘉名委員

- ・もちろん一箇所でのどのような活動をするかということも大切であるが、利用者は移動するので回遊して楽しいものがどうか、という考え方も必要である。

#### 増田委員長

- ・様々なシナリオをつくるというのが大切である。たとえば小学校 1 学年 100 名くらいが来たら半日どのような過ごし方ができるか。あるいは昼飯を持ってきて 1 日滞在するのであればどんなことができるのかなど、団体の過ごし方を考えなくてはならない。また平日の使われ方として未就学の子ども連れの親子がどんな過ごし方ができるか、小学生はどんなことができるかなど、対象別・滞在時間別にシナリオを作ることが大切である。

#### 弘本委員

- ・季節の変化も踏まえてシナリオができる。

#### 増田委員長

- ・だいぶ整理されつつあるが、活動イメージでいうと「観察型」、「学習型」、「管理型」、「レクリエーション型」などがある。それを整理してみるのもひとつである
- ・もうひとつの考え方としては、いきなりゾーンとして管理するのは大変なので、園路沿い 10m をどのように管理していくのかを考える方法もある。
- ・また、実験区を設定して、目標として「残す」樹木と「伐採」する樹木を決めて手を入れてみるという方法もある。
- ・これは急いで議論しないといけないというわけではない。しかし運営会議で議題として話し合いたいとのことであれば、会議を設けてもよいと思う。

#### 杉本委員

- ・20×20 メートルくらいの範囲というのは広くて難しかったので、5×5 メートルくらいの範囲で竹の丘や周辺で数箇所、どんな実生の植物が生えているのかを調査したことがある。

水辺の広場で行った調査結果として、どちらかというと木本より草本のほうが多かった。現在編成を変えながら引き続き調査をしている。エリア自体検討中のところが多いので竹の丘、水辺の広場、レンジャー広場の南の棚田も調査しているところである。

#### 増田委員長

・慌てなくてもいいので、そういう調査を進めていただければよいと思う。

#### 下村委員

・明るい森だと、ヤマツツジやモチツツジが生えてくる。照度計を用いてどのくらいの明るさで生えてくるのかを色々実験するとおもしろいかもしれない。片側5メートルなのか、10メートルなのか分からないが、そんな暗いところでも少しだけ間引いてあげると明るくなって何年か経ったときに低木が生えてくるのかもしれない。そんな実験しても面白いと思う。

#### 増田委員長

・これらゾーニングエリアの1番から26番まで全て議論できないので、どこか一箇所をサンプルとして、低木層、高木層、林床・総本数がどうなっているのか調査する方法もある。例えば明るい環境林のような林内空間を目指していくのであれば「高木層を間引く」、「低木層の柿のような果木を育てたい」など、戦略を練って目標像をつくってみてはどうか。また、ここでできるプログラムは「間伐体験」から最後は林間で「園遊会の実施」といったように、モデル的にプログラムを作っていくといいかもしれない。

#### 杉本委員

・大阪府が行う調査活動の中で、専門家が園内の数箇所において詳細な調査をしている。それに基づいた議論はできると思う。

## ○協議案件

- ①パークセンターの実施設計の検討状況について
- ②第4期パークレンジャー養成講座について
- ③間伐した広葉樹の利用
- ④2012年のパーククラブ活動計画（1月～3月）

## 協議1:パークセンターの実施設計の検討状況について

### 殿元委員

- ・研修室A Bは、着席で合計何名が入れるか。

### 事務局

- ・研修室A B合わせて50名くらいが入れる容量で設計を進めています。

### 嘉名委員

- ・使い方はパーククラブさんと話しながら決めていくほうがよい。壁一面コルク張にして付箋をはれたり、プロジェクターを投影したり、黒板にしたり、使い方をもう少し検討したほうがよい。

### 事務局

- ・研修棟の南側に壁をつくっているので、活用できるかと思う。

### 増田委員長

- ・壁がないと研修棟は使いにくいと思う。

### 嘉名先生

- ・パークセンター自体の地面の高さはいくらになるのか。

### 事務局

- ・ロータリーは57.4メートル。パークセンターの土間の床は、10センチあがって57.5メートルである。芝生広場側は57.4メートル。北側は57.0メートルで下がっている。研修棟は南北含めてパークセンターと同じ高さであるが、車庫の部分は法面に近いため57.0メートルに下がっている。そのため、当初の基本計画段階では書庫とパークセンターとの間にあったスロープも、車庫と研修棟の間だけに残る形で設計を進めている。

### 増田委員長

- ・南側の広場から同じ高さで研修棟とパークセンターには入っていけるということか。

#### 杉本委員

- ・ストーブはペレットでは駄目なのか。

#### 事務局

- ・園内発生材の活用という観点から、薪のほうが良いと考えている。

#### 杉本委員

- ・確かに、園内で発生した材を使うのが良いだろう。
- ・薪ストーブを使うために 1.5 メートルくらいの専用の床をひいているが、これだけでは薪ストーブを管理するには狭い。薪ストーブを使うのであれば床を専用のものにしたたり、座れるように段差をつくったり、憩えるような形にしたほうよい。今の感じでは薪ストーブの利用価値は低いと感じる。

#### 事務局

- ・高さレベルに関しては研修棟の廊下と同じであり、研修棟への動線と交差するため段差がつくりにくい。また端につくってしまうと皆さんが集まったときに空間としては窮屈ではないかと思う。したがって位置はここがよいと考える。

#### 杉本委員

- ・この形であれば、煙突の掃除が大変だと思う。メンテナンスを考えると心配である。
- ・シンボルツリーがヤマモモになっている。なぜヤマモモにしたのか。

#### 事務局

- ・昔からこの地域ではヤマモモの収穫をしていたと聞いていたということと、北側なので株立ちの寂しくないような樹種がよいのかなと思った。
- ・また、伝統的農家の景観をつくろうというコンセプトでしたので、ヤマモモを選んだ。

#### 増田委員長

- ・ヤマモモは少し暗いような気がする。また、玄関脇に植えることはない。
- ・落葉樹の株立ちのほうが軽くて明るいので良い。再検討してもらいたい。

#### 杉本委員

- ・屋外のデッキが檜材ですが、汚れやすいのではないかと。よくデッキで使われているギザギザの材のほうが素材的にはよいのではないかと。

#### 事務局

・檜も灰色になるが、汚れに関しては他の材も灰色になる。屋外であるため雨等で必ずぬれるが、その時、水が溜まらないように設計すれば檜でも大丈夫だと考えている。

#### 増田委員長

・薪の「地産地消」という表現は適切ではない。むしろ「ゼロエミッション」のほうが適している。公園廃材の利用ということはゴミを出さないということ。地産地消というところで育成して使うといった意味になるので、言葉の選択として合わない。

・薪ストーブに関してはもう少し東に動かせるのかもしれない。汚れ防止という意味でも、50センチ下げたらみんなが座って憩えるし、灰の飛散も防げるかもしれない。その辺りはもう少し検討いただきたい。

#### 増田委員長

・広場の樹木に関しては、木陰の下でみんなが団欒できるような場所があるとよい。桜の下で団欒というのはあまりない。ムクノキやエノキなど、夏や秋に団欒できるような種の樹のほうがよい。

・草屋根の土の厚さはいくつか。

#### 事務局

・最大で10センチですが、検討中である。土壌に限らず、土壌に換わるものを使いたい。現在も軽量土壌を選択しているが、もっと軽量な土壌もある。どれを使うかは検討したい。

#### 増田委員長

・屋根のディティールはもう少しつめてもらわないと不安である。腰屋根のところからどのように雨仕舞いするのか。

#### 事務局

・後半で水切りを設けて雨仕舞いをしようかと考えている。

#### 増田委員長

・全体的にもう少し詳細を検討したほうがよい。

#### 事務局

・これから図面を書きながら、詳細をつめていく予定である。

#### 弘本委員

- ・展示設備としてパネルを考えているが、こういったところの展示は現物や標本や工作したものが増えてくると思う。そういうものをどのような展示するのも考慮いただきたい。
- ・設備については、今からきちんと考えておきたい。例えば写真なんかは印刷してパネルで展示するだけでなく、画像でみせることも増えてくる。そんな展示方法にも対応できるように考えておきたい。
- ・外の設備として、調理のイベントをすることも考えられるので外で洗い物ができる設備があったほうがよい。
- ・薪ストーブに関しても、薪を景観的に美しく積めるようなスペースがあったほうがよい。
- ・今後活動していく中で、蜂に刺されたとか、蛇にかまれた等の苦情・救護が必要になってくる。AEDも含めて設備として何がいるのかを考えておく必要がある。

#### 増田委員長

- ・外部の水周りは必要である。
- ・焚き火用の「ピット」はどうするのか。ピットがないと消防法上問題がある。一般の人がいつでも使えるようなピットでは問題があるので、蓋をして鍵をつけるような仕組みが必要になってくる。屋外の利用も考慮が必要である。
- ・プレゼンテーションのやり方、展示のやり方等、什器として考えるのか、設備として配置するのも考慮が必要である。
- ・工具箱など、道具がまとまって収納できる、小中学校の理科実験室のような稼動式のものもあると便利だと思う。
- ・研修室の使い方も、どのような活動が行われるのかによって備えておく設備や什器考えながらつくっていく必要がある。

#### 嘉名委員

- ・パーククラブさんも、これが欲しいあれが欲しいではなく、「こんなことをしたい」というようなプログラムの提案をしていただきたい。そうすると設計者もどんなものが必要か考えやすい。

#### 増田委員長

- ・大筋のデザインの方向性は達成できた。これからはディティールの収まりを考えたい。

#### 下村委員

- ・図書機能として書架等の検討も必要だろう。調査用の資料等は室内に置くのかなど、パーククラブさんの書類用の書架が必要になってくる。
- ・コラボレーション区域からパークセンターへの動線は、ショートカットはできないのか。玄関口まで来た人が軒の下を歩いて庭にしかでられないのであれば、獣道のような道がで

きてしまうような気がする。樹木を寄せて広場利用の方のために道をつくった方がよいのではないか。

#### 事務局

- ・ショートカットをされる方も多いかと思った。そのため資料のような植栽を考えた。
- ・真ん中にアプローチを設けると広場空間を二分に割ってしまうので、それは避けたい。

#### 下村委員

・玄関先をもう少しオープンできないか。玄関口のところに垣間見える広場という魅力もあるが、南側を見ながら広場に直接入っていける場所があってもよいのではないか。

#### 増田委員長

- ・斜面のところに階段をつくることも考えられる。この辺りも一度検討いただきたい。

#### 下村委員

・外の風に当たりたいときに座れるベンチは最初から考えていたほうがよい。後になって軒下に景観に合わないベンチが入るようなことは避けたい。

#### 事務局

- ・南側の土間部分に何かしら座れるベンチを、と考えている。パーククラブ内で木工作業ができる方にお力添えいただきながら作れたらと思っている。
- ・購入品ではなく、どこまでパーククラブさんに作っていただけるか、相談しながらつくっていったらと考えている。

#### 西台委員

・玄関入ったときの明るさがわからない。展示を見るときには、ある程度明かりが入ったほうがよいと思う。

#### 増田委員長

- ・今は天窓が無い。ライティングも含めて次回詳細を検討したいと思う。

### **協議 2：第 4 期養成講座について**

#### 増田委員長

・パーククラブが担当する講座数が増えることになるが、パーククラブとして了解してもらえるのか。

#### 殿元委員

- ・了解している。誰が担当するのかパーククラブ内で相談しながら、決めていきたい。

#### 下村委員

- ・第11回は、今まで通り修了式も兼ねているのか。
- ・修了式に出席するために15時ころに来たほうがいいか。

#### 事務局

- ・はい。下村先生には修了式のために15時ころに来ていただきたいと思う。

### **協議3：間伐した広葉樹の利用**

#### 増田委員長

- ・しいたけの菌は買えるのか。

#### 事務局

- ・購入できます。

#### 増田委員長

- ・ほだ木は晩秋に伐るのがよい。イベント的に行ってもおもしろいかもしれない。大人がドリルで穴を開けて、木槌で打つようなイベントも楽しいと思う。菌打ちするドリルもあるのか。

#### 殿元委員

- ・ほだ木は既に用意できている。ドリルもあるので、菌打ちを春に実施しようかと考えている。
- ・まず試験的に実施して、うまくいったらイベント的に展開していきたい。

#### 増田委員長

- ・これだけイノシシがでていいる中、どこで栽培するかは考えないといけない。

#### 殿元委員

- ・不法侵入者、イノシシの侵入対策は必要だと思う。

#### 弘本委員

- ・イノシシのきれいな狼においては効果的と聞いたことがある。

**増田委員長**

- ・泉佐野市は農業被害対策としてイノシシに対する取り組みはないのか。

**事務局**

- ・聞いたことがない

**増田委員長**

・堺市などは農業対策として資金を出している。泉佐野市もそんな取り組みがあれば協働できるかもしれない。

**協議4：2012年のパーククラブ活動方針**

**増田委員長**

・100人近くの組織になると、どんなグループ形成が必要なのか、情報共有しながらも自由に活動できるような体制などを考えないといけない。

**西台委員**

・私の活動しているグループは全員で23名である。部会に分けず一緒に活動している。朝集まったときに役割分担をしている。

**増田委員長**

・私に関わっている別の公園は90～100人くらいの組織であるが、4つくらいの班に分かれて活動している。調査班や環境学習班、農作業班、森林整備班それぞれで活動して、月に1回協働作業日を設定している。各班の班長が集まる会議もある。10年間の間に紆余曲折しながらこの形になった。あまり別々になりすぎるのもよくないし、ずっと共同というのも重苦しい。バランスを考えるのが重要である。

**◆次回の会議日程**

1月下旬(詳細は後日連絡)